

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、 快適に暮らしています	施策 主管課	都市政策課	施策主管 課長名	佐々木賢二
	施策No.	2	施策名	公共交通の確保	施策の 目指す姿	公共交通が利用しやすくなっ ています	関係課名	観光課、地域振興課(石鳥谷)		
	現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> バス事業は、経費に比して利用者が著しく少ない状況が続いています。 市街地循環バス(ふくろう号)は、利便性の良さから増便が求められています。 市内JR駅周辺の駐車場が不足しています。 いわて花巻空港を発着する国内線の利用は概ね順調ですが、冬季利用率の落ち込みが著しい状況にあります。また、訪日外国人観光客にとって便利な発着便が少ない状況にあります。 							

◎ 前年度の評価の振り返り

(前年度評価時の今後の方向性)

- ・H29年度策定の花巻市地域公共交通網形成計画に基づき計画的に対応策を実施するとともに、地元との協議、説明を積極的に行う。
- ・空港の利用促進を図るためのキャンペーンや路線、便数の拡大に向けた活動及び国際チャーター便等の誘致に向けた取り組みについて、県、県空港利用促進協議会等の行う活動へ積極的に協力する。

(反映状況)

- ・花巻市地域公共交通網形成計画の年次計画に基づき、東和地域においてH29.9末で市営バスを廃止、H29.10.1から当日予約に対応可能なシステムを導入した予約乗合バスの運行を開始した。市営バスの廃止、予約乗合バスの開始にあたっては、振興センター単位、行政区のほか老人クラブサロン、区長会、地域協議会のほか、要請があった全ての場所において複数回説明会を実施した。また、H30.12から支線路線バスが廃止となる予定の大迫地区には、H29.7から公共交通確保対策事業の検討会の位置づけで細かい単位(地区/区長会/振興センター単位/地域協議会/行政区単位)で協議の機会を設けた。
- ・岩手県及び岩手県空港利用促進協議会が主催する県内及び就航都市等での空港利用促進に係るPR活動に積極的に参画するとともに、国際定期便化に向けた取り組みとして、台湾チャーター便を利用する市民及び市内事業所に対し、一部助成を行った。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1)利便性の高い公共交通の確保

- 予約応答型乗合交通の更なる拡充
- 市街地循環バス(ふくろう号)の増便と利便性の向上
- 新花巻駅駐車場の整備の促進(舗装有料化)
- 石鳥谷駅及び花巻空港駅の駅前駐車場の整備

(2)航空便の利用促進

- 航空便の増便に向けた関係機関への要望活動
- ・全国民間空港関係市町村協議会や岩手県市長会を通して国や航空会社への要望実施
- 空港利用促進のためのPR
- ・岩手県空港利用促進協議会が主催する県内及び就航都市等でのPR実施
- 岩手県が行う国際定期便及びチャーター便等の誘致促進事業への協力
- ・岩手県をはじめ関係機関が行う台湾・香港トップセールス等への参加

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合(A-1)	市民の身近な公共交通であるバス(民間運営、市運営)の利便性満足度を示す指標	市民アンケート測定 「普段の生活の中で利用する下記項目の基盤整備状況に満足していますか？」④公共バス(民間路線バス、ふくろう号、デマンドタクシー等) (1)満足、(2)どちらかといえば満足、(3)どちらともいえない、(4)どちらかといえば不満、(5)不満 (1)(2)選択数をカウントし、満足度を測定※分母から、無回答はバス利用者、利用希望者とみなさず分母に含めない。	%	目標値	50.0	50.0	50.0	43.0	43.0	43.0
				実績値	46.5	43.0	39.2	44.7		
花巻空港年間利用者数	空港(航空機)の利用状況を示す指標(平成28年度以降、国際定期チャーター便運航が予定されておらず、国際定期チャーター便が運航されなかった直近の平成25年度利用者数を成行値とする)	岩手県空港課(岩手県空港利用促進協議会)が集計し発表するもの。 (国際定期便4路線と国内・国際チャーター便の利用者数)	万人	目標値	40.4	40.4	40.4	42.3	43.1	43.1
				実績値	39.7	39.9	41.7	44.1		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<ul style="list-style-type: none"> ■成果指標「公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合」…【達成度a】 ・石鳥谷、東和地区における予約応答型乗合交通のサービス内容の向上や路線バスの利用促進策のPRによるものと考えられる。 ■成果指標「花巻空港年間利用者数」…【達成度a】 ・台湾からの国際チャーター便等の増加や国内定期便の福岡線機材が大型化(50席から76席へ)されたことが、増加した理由と考えられる。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結度	
1	空港利用促進事業	観光課	間接・ 少数	間接・ 補完	A
	岩手県空港利用促進協議会等への負担及び補助、関係機関と連携した利用促進活動の実施(航空会社、国等への要望活動 11回、関係団体との協議、検討会 11回)				
2-1	公共交通確保対策事業	都市政策課	一致	直結	B
	市営バス・大迫公共施設連絡バス運行委託、市街地循環バス・大迫花巻連絡バス・中部病院連絡バス・予約応答型乗合交通運行補助(コミュニティバス利用者数:77,841人、予約応答型乗合交通利用登録者数:1,889人)				
2-2	公共交通確保対策事業	都市政策課	一致	直結	B
	民間路線バス運行補助				
3-1	都市施設機能改善事業	都市政策課	間接・ 少数	間接・ 補完	-
	新花巻駅西側駐車場の舗装整備及び適正管理(工事発注件数:1件、誘導案内看板設置数:7基)				
3-2	都市施設機能改善事業	地域振興課(石鳥谷)	間接・ 少数	間接・ 補完	-
	石鳥谷駅前駐車場の整備・有料化(工事発注件数:1件、誘導案内看板設置数:3基)				

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> バス事業は、必要経費に比して利用者が著しく少ない状況にあり、赤字補てんのため多額の補助金を交付している。 <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通を必要とする市民が利用しやすい運行経路やダイヤ設定となるよう、利用者ニーズの把握に努め地域との協議を行うことが必要である。 照明など既存の施設・設備を改修することにより、より快適で利便性の高い交通広場環境を創出する必要がある。 花巻空港年間利用者数は国際チャーター便等の増加により目標値を上回ったが、冬季利用率の低下の課題があることから、利用者の季節変動を少なくする必要がある。 <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大迫地域における支線バス路線の廃止に備え、10月からの予約応答型乗合交通の導入に向け準備を進める。 市街地循環バスふくろう号の増便について、10月からの開始を目標に準備を進める。 補助要件割れが危惧される幹線バス路線である土沢線や大迫石鳥谷線の利用者数を増やすため、様々な利用促進策の実施に取り組む。
--

6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> バスの利用者は増加しておらず、更なる利用促進策を講じる必要がある。 笹間地区を運行する柵内線について、H31度内の廃止が見込まれるため代替りの移動手段を準備する必要がある。 花巻空港年間利用者数のうち、引き続き冬季利用率の低下の課題があることから、利用者の季節変動を少なくする必要がある。 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各総合支所と連携しながら幹線路線バスや予約応答型乗合交通の利用促進策を実施する。 花巻市地域公共交通網形成計画に基づき計画的に対応策を実施するとともに、地元との協議、説明を積極的に行う。 岩手県及び岩手県空港利用促進協議会などと連携し、県内及び就航都市での利用促進PRの強化、空路を利用した旅行商品の造成につながる働きかけを行う。
--